

小山田遺跡第8次調査 (小山田古墳) 発掘調査成果報告

奈良県立橿原考古学研究所

平成29年3月1日

調査地	高市郡明日香村大字川原 197-2
調査原因	小山田遺跡範囲確認調査事業
調査期間	平成28年12月22日～平成29年1月27日
調査担当	調査部調査課 主任研究員 鈴木 一議・宇野 隆志・木村 理恵 技師 岩越 陽平 嘱託 西川 加奈子
調査面積	調査面積 57.3 m ²
主な遺構	墳丘盛土・横穴式石室の痕跡（羨道側壁基底石抜き取り穴・石組暗渠）
主な遺物	土師器、須恵器、瓦、室生安山岩（板石）
要旨	今回の調査では、墳丘盛土と横穴式石室（羨道）の痕跡を検出した。小山田遺跡が古墳であることが改めて確定的となった。墳丘の一辺の長さは約70mとなる可能性が高まった。

I. はじめに

今回の調査は、高市郡明日香村大字川原 197-2 における小山田遺跡範囲確認調査に伴うものである。平成 26 年度に実施した第 5・6 次調査では、大規模な掘り割りや墳丘北辺の板石積みを検出し、平成 27 年度に実施した第 7 次調査では、古墳築造に伴うとみられる大規模な造成の状況を確認した。

これらの成果を受け、今年度の第 8 次調査では、墳丘南端部の様相と石室の有無の確認を目的に、県立明日香養護学校の敷地の南端部に調査区を設け、発掘調査を実施した（図 1・写真 1）。

調査期間は平成 28 年 12 月 22 日から平成 29 年 1 月 27 日までで、調査面積は約 57.3 m²である。

II. 発掘調査の成果

発掘調査の結果、墳丘盛土と横穴式石室の痕跡のほか、下層遺構を検出した（写真 2～7）。

墳丘盛土 北調査区を除く、調査区全域で検出した。地山上面を切土整地したのちに、暗灰黄色粘質土などによって盛土する。墳丘南端により近いとみられる東調査区では、暗灰黄色粘土と黄褐色粘土を南北長 30～40 cm、厚さ 10 cm 前後の単位で盛土した状況がうかがえる。

横穴式石室の痕跡（写真 2・3） 南調査区において、羨道東・西側壁基底石の抜き取り穴および石組暗渠を検出した。東側壁基底石の抜き取り穴は、南北長 1.2m 以上、東西幅 1.4m、深さ約 0.3m を測る。埋土は、黄褐色粘土で、室生安山岩片を含む。抜き取り穴の表面に、風化した石英閃緑岩片が付着する（写真 5）。西側壁基底石の抜き取り穴は、南北長 1.0m 以上、東西幅 1.5m を測る。埋土は、にぶい黄褐色粘質土で、多数の石英閃緑岩片とともに、室生安山岩片や結晶片岩片を含む（写真 6）。東・西側壁基底石の抜き取り穴間の距離は、内法で約 2.6m を測る。石組暗渠は南北方向で、東・西側壁基底石の抜き取り穴間の西寄りに位置する。その構造は、側石として長径 20 cm 前後の川原石を 3 段以上積み、内部に 3～10 cm 大の礫を充填する。内法約 20 cm、深さ約 30 cm を測る。蓋石はなく、粘質土によって覆われる（写真 7）。北調査区では、東側壁基底石の抜き取り穴 2 石分、西側壁基底石の抜き取り穴 1 石分、石組暗渠の東側石 1 段分と西側石の抜き取り穴を検出した。これら全体の位置関係からみて、破壊された横穴式石室の羨道を検出したものと判断した。

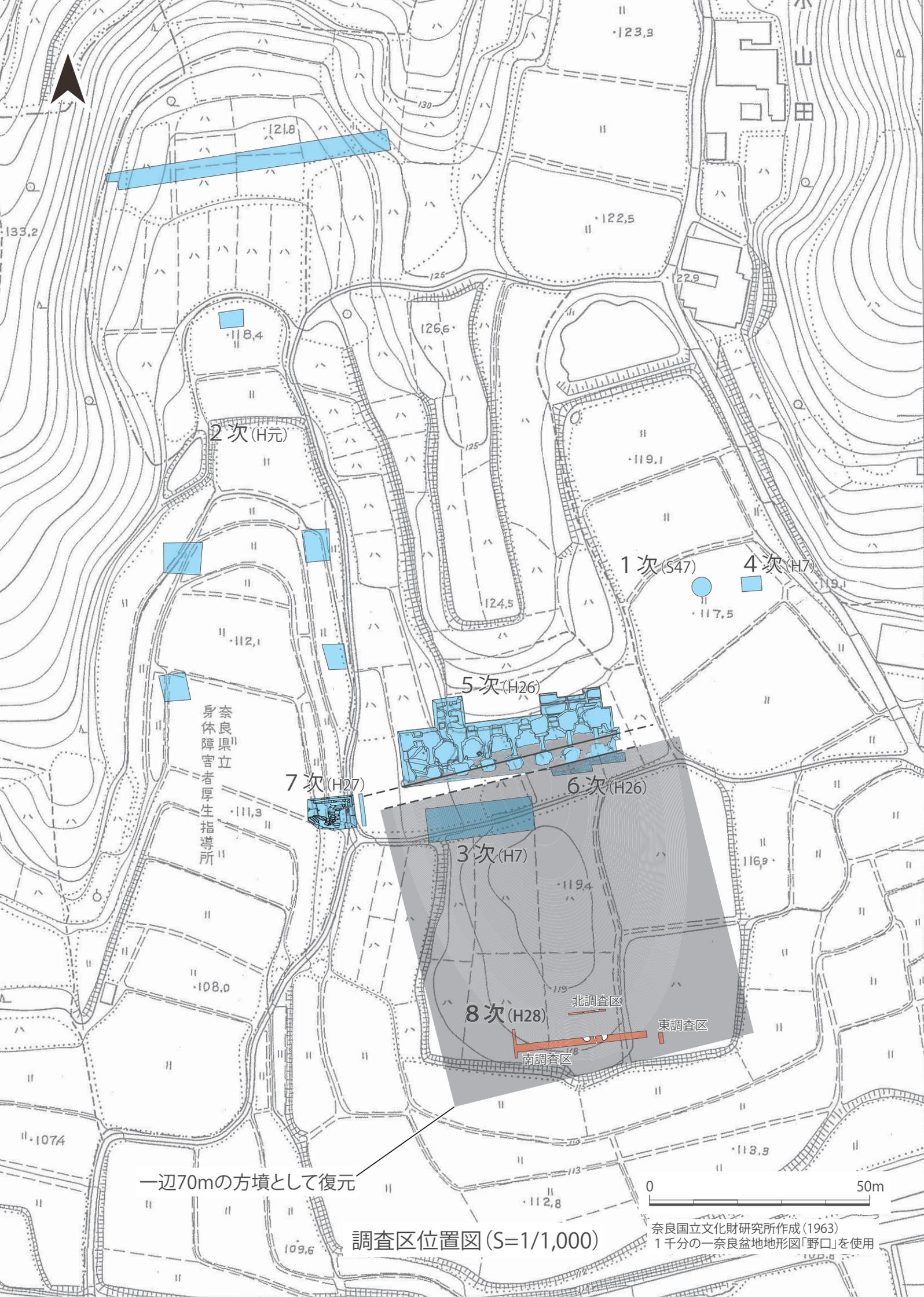
下層遺構 墳丘盛土の断ち割り調査によって、主に南調査区西側の地山面上で検出した。溝や土坑、ピットがある。これらは、古墳築造以前の集落に伴うものとみられる。

III. まとめ

今回の調査では、南・東調査区で墳丘盛土を検出したことにより、墳丘南端がさらに南へ位置することが明らかとなった。墳丘盛土中からは、6 世紀後半代の土器類とともに、7 世紀前半の軒丸瓦片が出土した。よって、小山田遺跡における古墳の築造時期が 7 世紀前半以降であり、第 5・6 次調査から掘り割りが 7 世紀後半には埋没していたとみられることから、飛鳥時代のなかで古墳の築造から埋没までの過程をたどれることが明らかとなった。さらに、横穴式石室羨道の痕跡を検出したことにより、小山田遺跡の性格を古墳であるとするこれまでの考えが、さらに確定的になったといえる。

今回までの調査成果を踏まえ、墳丘規模について検討すると、一辺約 70m の方墳となる可能性が高まった（横穴式石室が墳丘の中軸上にあると仮定）。また、羨道幅は 2.6m 前後とみられ、同時期の大型横穴式石室をもつ谷首古墳（1.7m）や石舞台古墳（2.1～2.6m）より幅広であり、小山田遺跡も大型横穴式石室をもつと予想される。

今回は、小規模な調査で、横穴式石室の一端をつかんだにすぎない。今後、面的な調査による横穴式石室の構造把握が求められるほか、墳丘範囲の確定や周辺の付帯施設の確認などが課題としてあげられる。これらの課題を明らかにするために、今後もさらに発掘調査を継続しておこなう必要がある。



2次(H元)

1次(S47)

4次(H7)

5次(H26)

7次(H27)

6次(H26)

3次(H7)

8次(H28)

奈良県立
身体障害者厚生指導所

北調査区

東調査区

南調査区

一辺70mの方墳として復元

調査区位置図 (S=1/1,000)

0 50m

奈良国立文化財研究所作成(1963)
1千分の一奈良盆地地形図「野口」を使用



写真1 調査地遠景（南から）



写真2 南調査区中央 横穴式石室の痕跡検出状況（南東から）



写真3 南調査区中央 横穴式石室の痕跡検出状況オルソー画像（上が北）



写真4 南調査区全景（東から）



写真5 羨道東側壁基底石の抜き取り穴検出状況（南から）



写真6 羨道西側壁基底石の抜き取り穴検出状況（南から）



写真7 石組暗渠検出状況（南から）